

自分だけの花を咲かせよう

主幹教諭 寺井 俊之

君達を花にたとえれば、みんな違った一輪ずつの花である。ユリの花だったり、ヒマワリの花だったり、サクラの花だったりタンポポの花だったりする。

ヒマワリよりタンポポの花が綺麗だとか、ユリがサクラより優れている、とか比較できないように、君達の存在も誰の方が優れているとか、誰が大切であるかとか、あり得ないことである。すべての花が、一輪一輪その花特有の美しさ・優しさ・力強さを持ち備えている。君達も、一人ひとりが大切な価値を持っている。他の花を羨むことなんかない。

しかし、今、君達はどうかであろう。たくさんの生徒が、自分で自分の可能性にフタをしている。自分には力（能力）がないから・・・と言い訳したり、自分は「ここまでしか出来ない」と勝手に思いこんだり・・・それ以上の努力をしない。

そんな中途半端で、ちまちました人生では、楽しくもないし、達成感・充実感もない。ドキドキする夢や、ワクワクする希望もない、しょぼくれた日常生活では、心の豊かさも芽生えてこない。大切なのは、一人ひとりが己をよく知り、自分で自分を図り、「個性」を磨くことだ。

では、「個性」とは何なのか。「個性」とは、見かけに訴えて、格好を付けることではない。それは単なる未熟で幼稚な「わがまま」であって、キラキラ輝く「個性」ではない。「個性」という花が咲くには、「志」という土壌が必要なのだ。それぞれ異なる「志」を持っているからこそ、他の誰でもない自分だけの花を咲かせることができる。

自分の花を精一杯咲かせることが、

自分の人生を大切に生きることなのだ。